

千波湖の「プランクトン」を調べました

～第1回千波湖環境学習会～

五月晴れの空の下、千波湖の鯉がはねる音と子どもたちの元気な声が親水デッキに響きました。

水戸市と協働事業で実施している千波湖環境学習会は、今年で11年目を迎えます。

今年度の初回は、5月11日に「千波湖のプランクトンを調べよう」をテーマに千波湖畔の親水デッキを会場として、親子96名の参加者で開催しました。

当日は、水戸市のマスコット「みとちゃん」が今年も応援に来てくれたため、子どもたちは大喜びでした。



みとちゃんと記念撮影



プランクトンを顕微鏡で観察

及びプランクトンの観察をしました。

最後に、二班が合流し講師からCOD（化学的酸素要求量）とパックテストの検査方法の説明を受け、各々が採水した水を用いて実験をしました。

今回のプランクトンの観察では、植物プランクトンの緑藻類（クンショウモ、ミカヅキモ、アオミドロ）と動物プランクトン（ゾウミジンコ）などを確認することができました。COD値は8mg/Lであることがわかりました。

今回学習会に参加していただいた方々に、千波湖のプランクトン及び水質環境に関心を持っていただけたのではないかと思います。

今年度の千波湖環境学習会もたくさんの方々の参加をお待ちしております。

最後に、今回、顕微鏡を貸していただいた茨城県霞ヶ浦環境科学センター様、学習会に華を添えていただきました「みとちゃん」、子どもたちにお菓子を提供いただいた東部燃焼器具販売株式会社様に感謝申し上げます。

参加者が多かったので、子どもたちを二班に分けそれぞれ学習することにしました。

最初に、一班がスワンボートに乗り、この後実験で使用する千波湖の水を採水しました。

もう一班は、簡単なクイズを交えながらプランクトンの説明を聞いた後、当日プランクトンネットを使い千波湖で採取した水を顕微鏡で観察しました。次に班を交代し、ボートでの採水



スワンボートに乗って採水

ホタルを観察しました

～第2回千波湖環境学習会・水戸市環境フェア 2019 前夜祭～

水戸市環境フェア 2019 の前夜祭として、第2回千波湖環境学習会を6月1日に開催しました。大人子ども合わせて250人もの参加があり、大変賑わいました。また、水戸市の姉妹都市である敦賀市からつるが環境みらいネットワークの皆様や、昨年度開催された世界湖沼会議でコラボレーションした劇団シンデレラの皆様も駆けつけてくれ、観察会を盛り上げてくれました。

開始前の午後5時から、東部燃焼器具販売株式会社様とアストロプラネット様によりストラックアウトが設置され、学習会開始まで多くの子どもたちがチャレンジし楽しんでいました。



ストラックアウトを楽しみました

午後7時から学習会がスタートし、ホタルが飛び始めるまでの間に行われた講師からのホタルの生態についての解説に、参加者は興味深く聞き入っていました。その後のホタルクイズでは、我先に答えようとするたくさんの子どもたちの元気な声が響き渡っていました。

そして、いよいよホタルが光り出す時間になると、事務局からホタル観察にあたっての

注意事項の説明があり、2グループに分かれスタッフの誘導のもと、観察を開始しました。今年は雨が少なく、ホタルの成長が間に合うか心配でしたが、その心配をよそに多くのホタルが姿を見せてくれ、参加者は感動



ホタルの生態についての解説を聞く参加者

の声を上げていました。また、

参加者からは、「こんな身近な場所でホタルが見られるとは思わなかった」という声も多く聞かれ、観察会は大盛況で幕を閉じました。

参加者の皆様に飲料を提供していただいた水戸ヤクルト販売株式会社様、誘導などで協力いただいた一般財団法人水戸市公園協会及び水戸市生活環境部の皆様にお礼申し上げます。

みんなで協力してビオトープを作りました！

～第3回千波湖環境学習会・水戸市環境フェア 2019 関連事業～

第3回の千波湖環境学習会は、水戸市環境フェア関連事業として、6月2日に開催しました。当日は午前9時から整理券配布、午前9時半開始と早い時間にもかかわらず、親子を中心に250名もの参加者が集まりました。

今回のビオトープ作りのために準備した植物は、ヨシやガマ、カキツバタなど合わせて3,440本にもなりました。植物の本数の多さにイベント時間内にすべて植え終わることができるか不安でしたが、参加者全員が力を合わせ、協力して作業をしていくことで無事にスケジュールどおりに進めることができました。



植え込み前に記念撮影、やる気十分です

服が泥で汚れることもいとわずに夢中で作業する子どもたちの姿を見て、この子どもたちが大人になるころの千波湖は、今よりもきれいな水となり、生き物の生息地としても今以上に豊かになっていることだろうと心強く感じました。

千波湖にビオトープを作る活動は平成24年度に始まり、今年で8回目の活動になります。これまでに造成したビオトープは、1周約3kmの千波湖の1割に当たる300mにもなります。ビオトープとは、ドイツ語で生物を意味するビオと場所を表すトープを合わせた言葉で、多様な生き物が生息する空間を意味します。特に、水はすべての生き物にとってなくてはならないものであり、水辺の豊かな自然環境は多くの生き物を育みます。また水際にヨシなどの湿生植物を植栽することにより、窒素やリンなどの水中の栄養分を吸収し、水質を良くする効果があります。これまでに作られたビオトープは小魚やエビ類の貴重な生息地となっています。



みんな真剣な表情で作業をしています

今回の「ビオトープを作ろう！」は、数多くの協力団体の皆様のご協力により開催することができました。はるばる愛知県から劇団シンデレラの皆様が、水戸市と姉妹都市である福井県敦賀市からは、つるが環境みらいネットワークの皆様が駆けつけてくださいました。

最後に、イベントの共同開催ならびに参加者の皆様に記念品や飲み物を提供いただいた、千波湖水質浄化推進協会様にお礼申し上げます。

こどもムシムシ探検隊

～第4回千波湖環境学習会・水戸市環境フェア 2019 関連事業～

第4回の千波湖環境学習会は、第3回に引き続き2日の午後に開催しました。午前9時から整理券を配布したところ、午前中には募集人員100名(子どものみ)に達し、親子で200名を超える方々の参加がありました。

あいにくの曇りという天気でしたが午後2時に協会ブースに集合して、開会式を行いました。

開会式が終わってよいよ、ムシムシ探検に出発、子どもたちは虫採りアミとケースをもらい、すでに虫を採る気満々で出発です。

はじめは、ふれあい広場南側にある流れのまわりで、トンボなどを観察し、採集に挑戦。ここではシオカラトンボ、オオシオカラトンボ、コシアキトンボなどが観察できました。その後、少年の森へ移動し、雑木林でしばらく自由に昆虫を採集しました。ここではコクワガタを採集した子どもたちがいて、盛り上がっていました。

また、昆虫ではありませんが、ダンゴムシも沢山観察できました。

最後は、少年の森の広場へ移動し、モンシロチョウや明るい草原を好むバッタの仲間などの採集に挑戦しましたが、飛んでいるチョウは走って追いかけてもなかなか採集が難しく、それでも子どもたちは、楽しそうに走り回っていました。

午前中のビオトープを作ろうにも参加していただいた劇団シンデレラの皆様をはじめ千波湖水質浄化推進協会様、他多くのサポートもあり、無事観察会を進行することができました。ありがとうございました。また、記念品や飲み物を提供いただいた千波湖水質浄化推進協会様、有限会社 沼田クリーンサービス様にお礼申し上げます。



探検前の開会式



林の中でムシムシ探検